

「当院で実施した2ポートを用いた腹腔鏡補助下腹膜透析用カテーテル留置法についての後方視的観察研究」について

赤穂市民病院外科では、現在、腹腔鏡補助下腹膜透析用カテーテル留置法の治療を受けられた患者さんを対象に、治療内容と術後の経過を検証する研究を実施しております。この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております、問い合わせ窓口までご連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

腹腔鏡を用いた腹膜透析用カテーテル(以下 PD カテーテル)留置は広く実施されています。また、2005年頃から、2ポート法での実施が報告されています。本施設では2024年より、2ポート法での手術を実施しており、「CREATING AND MAINTAINING OPTIMAL PERITONEAL DIALYSIS ACCESS IN THE ADULT PATIENT: 2019 UPDATE」に準拠した方法を採用しています。ガイドラインでは「経腹直筋的なカテーテル留置」、「腹直筋内トンネル作成」が透析液の漏出予防に有効とされ推奨されています。本方法は同ガイドラインに準拠して経腹直筋的にスコープポートを留置し、最終的にカテーテルが腹直筋内トンネルを通過する用に留置する方法です。利用目的としては、手術の安全性を後方的に確認し、今後の医療の発展に役立てることにあります

【研究期間】

この研究は、2026年4月1日より1年間行う予定です。

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

PDカテーテル留置術の手術記録、術後経過項目について収集します。氏名や住所は収集いたしません。

【個人情報保護の方法】

本研究は、患者さんの診療記録から得られた情報のみを使用する「後ろ向き研究」と呼ばれるもので、患者さんに新たな診療や検査を強いるものではありません。研究に用いる情報は、個人が特定できないよう匿名化して管理し、個人情報を保護します。

【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益：研究対象者には本研究による直接的な利益はありません。

不利益：後ろ向き研究であり、負担やリスクを増すものではありません。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

データのご使用をお断りになる場合には直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。

[情報の提供を行う機関の名称及び管理責任者の氏名]

研究代表者および研究責任者: 赤穂市民病院 外科 玉木 一路

[問い合わせ窓口]

研究課題への問い合わせ先: 赤穂市民病院

外科 玉木 一路

電話 0791-43-3222